

平成18年度「きらめく水のふるさと磐梯」湖美来基金水環境保全活動支援事業活動内容

No. 1			
団 体 名	猪苗代湖の自然を守る会	事 業 名	みんなでやろう水環境
事業の目的	猪苗代湖・裏磐梯湖沼群の自然を守り、水環境保全と動植物の保護育成を図ると共に、広く自然保護思想の普及啓発向上に寄与することを目的とする。		
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 猪苗代湖と秋元湖の清掃活動実施（5月～10月）</li> <li>・ 河川及び湖（河川8本・湖8ヶ所）の水質調査実施（5. 8. 11. 2月の計4回）</li> <li>・ ほ場排水等 水質調査実施（日本大学と協同調査 5月）</li> <li>・ 猪苗代湖湖心の水質調査実施（日本大学と協同調査 9月）</li> <li>・ 長瀬川本流水質調査実施（11月 沼尻温泉～河口まで）</li> </ul> 渡り鳥の調査実施（10月～2月）		
成果・今後の課題等	湖や河川のゴミ等の清掃活動実施により、水質及び環境保全に貢献した。 河川及び湖の環境がどのような変化しているか。また生態系等の環境保全に貢献。 湖心の水質の変化状況の把握に努めた。 は場排水の状況（水質）はどのような水が湖に排出されているのか。  課題 ゴミの量をいかに少なくするか。河川等にゴミを捨てさせない啓発。		

No. 2			
団 体 名	いなわしろ民話の会	事業名	昔の生活から水の大切さ、自然の大切さを知ろう。
事業の目的	猪苗代湖や周辺の河川などに係わる、昔の生活を記録保存し、後生に伝えると共に、水の大切さ、自然の大切さを啓蒙します。 ひいては、猪苗代湖と周辺水域の環境保全に寄与するものとします。		
事業の内容	第二次世界大戦後の急速な生活の近代化は、今まで面々と作り上げてきた自然との共生を、根こそぎ破壊してきました。そこで、今ではもう見られなくなった昔の生活を思い起こし、自然との共生の大事さを再認識してもらおうと考えました。 昔の水とのかかわりのある生活の内容を取材し、また自らの体験をまとめてみました。 また、まだ破壊されていない昭和20年から30年代に撮影された光景をパネルにして、多くの人に見てもらい、水環境の大切さを訴えました。 第一に昔の生活や古写真に説明をつけた冊子を八個しました。その冊子を町内の小中学校や民話を聞きに参集した人たちに配付しました。第二に、古写真展「水のある光景」を平成18年10月29日～11月9日までの11日間、猪苗代町公民館で開催、延べ人数400名の方々に見てもらうことができ、関心を高めることができました。		
成果・今後の課題等	町内の小中学校、児童クラブ、各種行事、研修施設などで公演、水環境や自然の保全などの大切さが語られている民話を語るとともに、水に係わる昔話を聞いてもらえることができました。 また、「水のある光景写真展」を開催しましたが、多くの方から反響があり、水をきれいに守ることの大切さを訴えることができました。 水と係わる昔話と古写真をまとめた冊子「昔語り 水を大事にしたもんだーきらめく水のふるさと磐梯第二集」を発刊しました。 猪苗代地方においても、生活の近代化とともに昔の生活を知る人たちが少なくなってきており、水を大切にしてきた昔の生活の収集には、さらに多くの労力が必要になってきています。 今のうちに収集しないと、忘れ去られるのではないかと危惧されます。これからも民話や昔話を通じて、水環境、自然環境の保全が大事であることを知らしめる工夫をするのと同時に、昔の生活を調査、収集、研究していかなければならないと感じました。		

No. 3			
団 体 名	いなわしろ伝保人会	事 業 名	湖水の利活用とくらし
事業の目的	テーマに沿った講話のあと現地を見学し、実体験を通して考査することで、水環境保全・保護の意識の高揚と湖水利用の認識を図る。		
事業の内容	<p>テーマ 用水路の歴史と、現在に至るまでの生活との係わり。</p> <p>猪苗代湖からの水が会津盆地にどのように活用されてきたかを探り、水と人々との歴史を考察することを目的として実施した。</p> <p>内容</p> <p>バスを利用して猪苗代湖の取水口から水力発電、水田への利用、飲料水への利用を実際に目で確認しつつ、講師の説明を聞いて猪苗代湖の水がどのように会津の人々の生活に利用されてきたかを体験してもらった。参加者36名。</p>		
成果・今後の課題等	<p>前年は猪苗代湖に注ぐ裏磐梯からの水利用と猪苗代湖の東側、安積疏水について学習し、猪苗代湖の水がいかに地域の人々の生活に役だっているか、またこの地域だけでなく、首都圏に多大の貢献をしてきたかを学びました。</p> <p>今回は古くから、猪苗代湖の水を利用してきた会津盆地での水利用を学習しました。</p> <p>東京電力での猪苗代湖と会津盆地との落差を利用した水力発電、会津若松市の飲料水としての水利用、そして水田開発に携わった人々の苦勞を調べることによって、先人の当時の努力が思い起こされました。</p> <p>また、悲劇の歴史として伝えられている白虎隊が潜った飯盛洞門を実際に潜ったときは、参加者の間からも感動の声が上がりました。</p> <p>水利用の歴史は知れば知るほど、人間の偉大さを実感するとともに、このことを何とかして後世に伝えていく必要があると実感させられました。</p> <p>今回は猪苗代町の住民を対象に、会津盆地での水利用について学習してもらいました。</p> <p>普段は考えもしない下流域での水利用を学び、参加者は水の大切さを実感しましたが、今後は下流域に生活している人々に上流域の人々が、きれいな水を維持するためにどのような努力をしているかを学習していただく企画をしたいと思います。</p> <p>そして、上流域・下流域の人々が協調して水利用と保全についての共通の認識を持てる場を作っていきたいと思っています。</p>		

No.4			
団 体 名	五十嵐 悟	事 業 名	裏磐梯・猪苗代周辺におけるウチダザリガニ生息分布調査
事業の目的	小野川湖周辺より生息が確認されたというウチダザリガニが、現在どこまで生息域を広げているかを知り、外来種であるウチダザリガニの侵入を未然に防ぐためのデータとする。		
事業の内容	<p>7月から9月までの間に、目視及びタモ網による捕獲により実施した。</p> <p>捕獲したウチダザリガニは、体長（mm）をスケールにより計測した。</p> <p>調査場所は、吾妻川、大川入川、会津川、細野川、雄子沢川、小野川湖流れ込み、白樺橋下、中瀬沼流れ出し、長瀬川（渋谷橋下）、観音寺川、桧原湖（松原キャンプ場付近）、秋元湖猪苗代湖北部、柳沼、毘沙門沼、瑠璃沼、レンゲ沼。</p>		
成果・今後の課題等	<p>今回調査した場所において、ウチダザリガニを発見できた場所は秋元湖、中瀬沼からの流れ出し、細野川、白樺橋下の4箇所だった。</p> <p>今回の調査結果では、猪苗代湖にまでウチダザリガニがいるという噂はあったが、確認することはできなかった。その代わりに、猪苗代湖ではアメリカザリガニは見かけることが多かった。</p> <p>今回は新たに秋元湖での生息が確認でき、中瀬沼からの流れ出しからも確認できた。これにより、中瀬沼にも生息している可能性が高いと思われる。</p> <p>桧原湖においては山県大学の調査結果から、狐鷹森周辺から細野周辺にかけて分布していることが分かっていたが、今回の調査では、細野川への侵入が確認できた。</p> <p>また、桧原湖北岸の流れ込み河川及び、南岸の河川には生息は確認できなかった。</p> <p>五色沼周辺では、瑠璃沼と青沼の間でウチダザリガニの死骸と思われる個体が確認されているが、今回の調査ではウチダザリガニを発見する事はできなかった。代わりに、アメリカザリガニを毘沙門沼、瑠璃沼、柳沼で発見できた。</p> <p>また、休暇村内長瀬川水系では、裏磐梯サブレんジャーの会の研修時（2005.6）にウチダザリガニの生息を確認している。</p> <p>今回の調査で、ウチダザリガニの裏磐梯での分布の拡大を確認できた。</p> <p>今後とも、特定指導外来種であるウチダザリガニの駆除及び調査が必要である。</p>		

No.5			
団 体 名	(社)猪苗代観光協会	事 業 名	猪苗代湖の水環境と自然に親しみ、周辺の歴史等にふれあう事業
事業の目的	3年連続水質日本1位となった、猪苗代湖の自然環境、歴史等を学びながら、素晴らしい自然景観と水環境を広く県民に知ってもらい、併せて環境に対する理解を深めてもらうことを目的とする。		
事業の内容	<p>猪苗代町役場に集合し、バスを利用したの猪苗代湖一周を試みた。</p> <p>白鳥ヶ浜よりサイクリングロードを猪苗代湖の自然について、講師からの説明を受けながら約1時間のウォーキングをした。</p> <p>次に中山風力発電について、郡山国道事務所係官より説明を受けた。</p> <p>湖南町福良で昼食のあと、講師より再度猪苗代湖の自然について説明を受け、次に湖南町の青松ヶ浜で領境の松について、伝保人より説明を受けた。</p> <p>最後に会津レクリエーション広場から徒歩で十六橋まで歩き、安積疏水並びに猪苗代湖の水について、説明を受け終了した。</p>		
成果・今後の課題等	<p>参加者全員が、猪苗代湖及び裏磐梯からの水環境について、大変勉強になったとの感想をいただきました、</p> <p>少しでも多くの方に水環境並びに自然についての興味を持っていただき、猪苗代湖及び磐梯山周辺の自然に対しての、啓蒙並びに啓発に多大なる成果があった。</p> <p>また、継続事業で行えばさらに効果が期待できると考えます。</p>		

No. 6			
団体名	高橋一泰	事業名	裏磐梯湖沼群の水質測定による水環境の監視
事業の目的	裏磐梯地域における代表的な湖沼の継続的な水質調査により、水質を監視し、当該地域湖沼群の水環境保全に役立てる。		
事業の内容	<p>裏磐梯地域の桧原湖（4地点）、小野川湖（2地点）、秋元湖（2地点）、曾原湖（2地点）、毘沙門沼、中瀬沼、レンゲ沼の8湖沼14地点において、平成17年6月～11月までの期間、水温、pH、導電率、NH<sub>4</sub>-N、NO<sub>2</sub>-N、I無機態-N、P<sub>04</sub>-P、COD、溶存酸素及び大腸菌群を測定した。</p> <p>合わせて、採水時に湖岸周辺を観察し浮遊物等を写真撮影した。さらに調査地点周辺で関係者等から水環境に関わる情報などについて聞き取りを行った。これらに加え、本年は桧原湖、小野川湖、秋元湖、曾原湖に流入する11河川の水質調査も行った。</p>		
成果・今後の課題等	<p>桧原湖①地点の導電率が全体的に高く、かつ4倍ほどの大きな変化が認められ、前年と同様の傾向であった。無機成分に他の地点とは違いがあることが分かったが、人為的なものかは不明。</p> <p>P<sub>04</sub>-Pが7月と8月に高値を示したが、9月には通常の数値に戻った。NH<sub>4</sub>-N、NO<sub>2</sub>-Nは、測定感度以下で細かい変化は把握できないが問題になるデータは認められなかった。</p> <p>9月、水位が著しく下がった小野川湖でオオマリコケムシが観察された。この生物と水質の悪化との関係が指摘されているので、今後注意してゆく必要がある。</p> <p>桧原湖、曾原湖でボートや除雪車の燃料漏れによる汚濁があった。関係者により対処されたが管理の徹底が求められる。</p> <p>湖に流入する川のCODは多くが、1.0mg/l以下で“きれいな水”であった。</p> <p>しかし、大腸菌群は予想を超えて検出された。</p> <p>大腸菌群が目立って多い地点や、11月に多かったのは何故か。人為的な汚染はないのかなど、今後の課題としたい。</p>		

No. 7			
団体名	川桁ふるさと会	事業名	猪苗代湖の水環境と観音寺川の水環境にふれあう事業
事業の目的	河川の美化及び水質の保全活動により、湖沼の水質の浄化に寄与する。		
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戸ノ口十六橋にて講師による猪苗代湖のミス利用の説明</li> <li>・青松が浜視察</li> <li>・田子沼分水路にて安積疏水土地改良区職員による、猪苗代湖の水利用の説明</li> <li>・観音寺川下流、上流にて講師指導による水質検査体験</li> <li>・リステル会場にて水質検査内容の講義</li> </ul>		
成果・今後の課題等	<p>猪苗代湖の水利用を会員の殆どが理解しておらず、布藤関を経て、発電所および若松地区住民の上水道の利用や、安積疏水を経て郡山、安積地区の上水道、灌漑用水、発電所等に利用されている事を理解していただいた。</p> <p>観音寺川においては、水質検査を体験し、上流と下流における水質の変化を肌で感じていただいた。</p> <p>日頃、観音寺川の清掃、維持等に活動しているが、さらに猪苗代湖の水環境の保全のために必要性を感じたようだ。</p> <p>会員参加が14名と少し少なかった。今後は募集を早めにし、準備で盛り上げたい。</p> <p>地元にながら、猪苗代湖を一周した人が少ないのには驚いた。今後も活動を含め、猪苗代湖の素晴らしさを伝えたい。</p>		

No. 8			
団 体 名	おもだがわ 大茂田川等の自然を守る会	事 業 名	大茂田川等の自然を守る
事業の目的	河川の美化及び水質の保全活動により、湖沼の水質の浄化に寄与する。		
事業の内容	<p>猪苗代湖流入河川である大茂田川流域住民の、水環境保全に対する意識向上を図るため、年5回大茂田川の上流・中流・下流の水質調査を行い、調査結果を流域住民に周知、水環境保全・保護の涵養に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大茂田川、及び支川の清掃～土砂等の除去、枯れ木の取り片付け、落葉、草刈り</li> <li>・ 上流、中流、下流における水質調査と水生生物の調査</li> </ul> <p>流域住民からてんぷら廃油を収集、廃油せっけんを作り、大茂田川汚染防止を図った。</p>		
成果・今後の課題等	<p>大茂田川流域住民全戸に調査結果のちらしを配付し、汚染状況を周知した結果、住民から色々の反応が寄せられ、水環境保全意識の高揚になったと思われた。</p> <p>また、廃油せっけんづくりで町内にちらしを配り、てんぷら廃油の収集を行った結果、機関中約500Lの廃油が集まり、その保管、石鹼製作にうれしい悲鳴をあげている。</p> <p>その所為か、時々油の浮いていた大茂田川に最近油が浮くことがなくなった。</p> <p>水質検査を行っていることで、川にゴミなどを捨てる人が減少した。</p> <p>定期的に水質検査を始めたのは今年がはじめてであり、その調査内容も完全とは言えず、手探り状態の1年でありました。</p> <p>廃油石鹼も品質的に問題があり、改良の必要があります。</p> <p>このまま廃油収集を続けると、石鹼だけでは処理しきれず、廃油燃料製作も考慮中です。</p>		

No. 9			
団 体 名	福島県建築士会猪苗代支部	事 業 名	全町一斉水質調査
事業の目的	身近な川や側溝の水質調査を実施し、その現況を把握し、水環境保全の必要性を啓蒙する。		
事業の内容	<p>自分の身近な川や側溝、田んぼ等、自分が調査したいと思う水を持ち寄り、簡易測定器具にてCOD等を測定し、その値を地図に書き入れ、町全体の水質状況を知る。また、猪苗代の代表的な小黒川、高橋川、観音寺川、三つの川の水質調査を行いその現況を知る。</p>		
成果・今後の課題等	<p>イベントへの参加によって、水環境への興味が生まれ、自分たちの身近な水質状況を知ることができた。少なくとも参加者については、水環境保全の必要性に気付いた事は、成果と考える。</p> <p>参加者だけが、現況を知り水環境保全の必要性に気づいただけでなく、今回の調査結果をいかし、啓蒙活動の輪を広げることが今後の課題と考える。</p>		

No. 1 0			
団 体 名	水と緑を守る舟津川愛護会	事 業 名	自然は友達
事業の目的	身近な自然の中で様々な活動を行い、その中で人づくり、地域づくり、環境問題等を考え、自然を理解し、自然との共存を図っていく。		
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4月29日 河川のゴミ拾い</li> <li>・ 5月7日 春彩フェスタ</li> <li>・ 7月2日 河川の草刈り</li> <li>・ 7月2日 プランターへ花植（湖まつりステージ飾りつけ用）</li> <li>・ 7月23日 川で遊ぼう学ぼう</li> <li>・ 7月29日 湖まつりステージへプランター飾りつけ</li> <li>・ 9月24日 河川敷草刈り及び菜の花の種まき</li> <li>・ 10月22日 水と緑と人々の感謝祭</li> <li>・ 11月5日 舟津川源流遊歩道現地確認、及び研修、懇親会</li> <li>・ 11月27日 猪苗代湖・裏磐梯湖沼水環境保全フォーラム事例発表</li> </ul> <p>1月21日 愛護会新年会</p>		
成果・今後の課題等	<p>今年1年を振り返ると、イベントや作業にたくさんの方の協力と支援があり、序所にはありますが、川や自然に関心を持たれる方が増えてきました。</p> <p>そして、19年4月ごろからは舟津川源流域の方たちによる森づくりを始めとした様々な活動が展開されようとしています。</p> <p>まずは、自分たちの住むこの町の良さを知るとともに、この町に生まれ育って良かったと誰もが思い語れる地域を作っていくこと。子や孫にこの自然を手渡していくことが私たちの責任だと思っています。</p> <p>今後や流域全体で水や自然のことを考え、実践していくことが必要です。</p>		

No. 1 1			
団体名	N P O 法人会津の森林を育む協議会	事業名	湖畔の広葉樹の森森林整備
事業の目的	森林の持つ水環境保全機能や地球温暖化防止に貢献する動きに高い関心が寄せられている中、杜と川と湖のプレゼンテーション、水源林および源流の視察、ボランティアによる森林整備を行い、猪苗代湖の水源としての森林の重要性を理解し、野生キノコの採取・鑑別会を通じて森の恵みや森林保護保全の重要性を広く認識していただく。		
事業の内容	森林の持つ水環境保機能や地球温暖化防止に貢献する動きに高い関心が寄せられている中、猪苗代湖の上流域である猪苗代町長田地区（昭和の森）において、森と川と湖のプレゼンテーション、水源林および源流の視察、ボランティアによる森林整備を行い、猪苗代湖の水源としての森林の重要性を理解し、野生キノコの採取・鑑別会を通じて森の恵みや森林保護保全の重要性を広く普及する。		
成果・今後の課題等	<p>前回まで広葉樹を中心に行っていましたが、猪苗代町の上水道を担っている水源地の近くに未整備の唐松（3.00ヘクタール）があり、今回は間伐作業を行うことで、水源林環境保全の重要性を普及することを目的に開催した。森と川と水鶴海のプレゼンテーションでは、「森林の玄kひょうと水源林の重要性について」で福島県会津農林事務所森林林業部の弓田氏より現在の森林の情勢や凶威厳林保全の重要性について講話頂き、続いて「唐松の間伐作業について」会津若松地方森林組合の渡部より施行前の注意点を説明する。各班に分かれながら全員で唐松の間伐体験作業を行う。なお、意見交換会では、10月25日に開催された交流会の資料を参考にしながら、参加者との交流を図った。また、野生キノコ採取や鑑別会を行い、猪苗代湖の水源として森林の持つ多面的機能の重要性や杜の恵みの大切さを広く普及し、体験を通じて理解することができた。</p> <p>さらに参加者が集まるPRを実施する。</p>		

No. 12			
団体名	裏磐梯ホテルの会	事業名	裏磐梯地域のホタル環境の保全とホタル保護
事業の目的	裏磐梯地内においてホタル生息地の水質、環境のデータを蓄積しホタルの保全に役立てる。またホタル観察に関する資料を作成し、啓蒙運動を進めることによりホタルの保護につなげる。		
事業の内容	<p>水質、環境のデータに関しては、ホタル生息地の河川、時期の違いによる水質11項目を検出し、その推移から環境のデータを蓄積する。検査時期は7、9、12月。</p> <p>観察資料の作成では、ホタルに親しみながら観察のマナーが身に付くような内容を盛り込んだポスターを作成し、地域住民や観光事業所に配布してホタル保護に対する知識向上に努める。</p> <p>ポスターは6月に作成しホタルの飛翔が始まる前に各地域、事業所に配布する。</p>		
成果・今後の課題等	<p>今回の水質調査で記録した水質データは、裏磐梯のホタル生息地の水質状況を把握していく上では大変重要なものとなった。</p> <p>今後この事業を継続して行い、ホタル生息地の水質基準データを作成しホタル個体数の増減などの原因追及、水質環境改善に役立てていきたい。</p> <p>ホタルポスター作成では美しい蛍火の写真を効果的にレイアウトしたことにより観察マナー、自然環境保護の大切さを地域住民や観光客に一層アピールすることができた。</p> <p>また、毎年1回開催する観察会では、ポスター配布の影響から例年よりも多くの方々に参加していただくことができ、ホタル飛翔の美しさを堪能したとともに生体維持と水環境改善の重要性を知っていただく大変良い機会となった。</p> <p>(今後の課題等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホタル生息地の水質基準データの作成継続</li> <li>・地域住民と観光事業所、観光客のホタル環境保護に対する更なる知識向上</li> <li>・自然環境改善、清掃作業などの継続</li> </ul>		